

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

事業所番号	0671900231		
法人名	社会福祉法人 南陽恵和会		
事業所名	こぶし荘認知症高齢者グループホーム		
所在地	山形県南陽市川樋508番地		
自己評価作成日	平成23年 9月30日	開設年月日	平成14年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の暮らしを楽しみ、地域の皆さんの連携を頂きながら、のんびり和気あいあいと過ごされています

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 23 年 10 月 14 日	評価結果決定日	平成 23 年 10 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共同生活住居において家族的な環境の下、利用者本位の支援と家族の負担軽減を図る事を基本理念とし、地域に密着した事業所を目指し、日々様々な活動や支援に取り組んでいる。事業所開設以前から同法人の福祉施設が運営されている経緯もあり、地域とは密接に連携しており、地元の小学校との交流や防災協力体制の確立等、地域の一員として活動や役割を積極的に担っている。また、管理者及び職員は、理念の実践に向け常に利用者本位のケアを心掛けており、利用者は自然豊かな環境の下、ゆったりとした時間の流れの中で思いおもいに過ごす事ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の主体性を大切にした関わりを第一に掲げている。また、入居者、職員が地域に根ざした生活を目標としている。	毎年度の事業計画作成の都度、事業所の基本理念や職員目標を掲げており、研修会等、折りに触れ職員に周知することで実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	様々な地域の行事、催し等に参加しながら交流の機会を持っている。また、法人全体でも多様な面で地域の方々との協力体制が整っている。	敷地内に同一法人が運営する福祉施設が以前から運営されている経緯もあり、防災体制も含め様々な面で協力体制が確立されている。具体的な取り組みとしては、地元の小学校や児童館で開催される運動会、お楽しみ会への参加や、公民館での文化祭、地元のお祭り等に積極的に参加すると共に、法人主催の夏祭りには地域の方も招待し親睦を深める等、双方向的な交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りでは、模擬店や踊り、花火など地域の方々をご案内して一緒に楽しんでいる。ノーマライゼーションの精神から法人全体が様々な地域の窓口となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子について話し合いをしているが、サービス内容に満足していただけているかの判断にも役立っている。	民生委員、市の職員、利用者及び家族代表等の参加を得て、2ヶ月に1回開催されている。会議では、日々の利用状況について報告する他、参加者からのアドバイスや要望を受け付け、サービスの質向上に活かしている。尚、今後は運営推進会議に参加する家族の負担軽減の為、参加メンバーの構成についても検討を予定している。		

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関してや生活保護受給者への支援など、関わりのある市担当職員と協働して取り組んでいる。	運営推進会議に委員として出席してもらっている他、市役所に出向く機会を利用し日々の状況を報告し、必要に応じて指示を仰いでいる。また、困難事例について市と情報を共有し課題解決を図る等、協力関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人として委員会を設置して随時、検討を行っている。危険度を考慮しながら、なるべく拘束のないよう取り組んでいる。	法人の身体拘束廃止委員会にグループホームの職員が参加し、定期的に検討する事で、身体拘束の具体的な行為やその弊害について理解を深め、安易な拘束を行わないケアに努めている。尚、外に出たがるなど不穏な行為が見られる場合は、行為に至る原因の分析を行い、付き添いや見守りを強化することで、原則玄関に施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として委員会を設置して随時、検討を行っている。基本理念にある人間愛に基づき、職場内研修会で説明している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度上、後見人として関わられている事例があり、都度学ぶ機会になっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には、実際にホームを内覧して頂いたり、細やかな説明に努めている。解約時は、その後の生活に不安の無いよう整ってから行うようにしており、利用者、家族の意向を大切にしている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口、およびその担当職員を明示しており、サービス利用開始時に家族等に説明している。また、玄関ポーチに掲示。	玄関に意見箱を設置する他、面会時等を利用し意見や要望について把握しており、その際には利用者、家族が気兼ねなく相談出来る雰囲気作りに努めている。出された意見は職員間で共有し、運営に反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に資質向上を念頭に掲げ、ホームの状況把握にも熱心である。職場内研修会等、人材育成にも積極的である。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理責任や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人に合った時間や条件の配慮がなされている。自主性を重んじ、職員間での協力と調整力は上手く機能している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への派遣と職場内研修会の開催。また、個々に対話する時間を確保している。	法人の研修会が年間を通して開催されており、職員は積極的に参加している。職員の希望や介護技術、経験年数、事業所での役割等、総合的に勘案し外部研修にも派遣し、適切な研修の機会を確保している。外部研修に参加した職員は、伝達を行い、職員全体のスキルアップを図っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症高齢者研修や老施協研修等。	同系列のグループホーム立ち上げの際、見学を受け入れたり、情報交換を行う等、他事業所と交流する機会を設けている。また、管理者が認知症高齢者研修の企画立案に関っている経緯もあり、研修会を通じて得た情報、知識が、職員にも伝わり、事業所全体の質向上に繋がっている。		

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特にコミュニケーションを多くとりながら、早く馴染んで頂けるよう関わっている。家族にも当初は特に多めの関わりをお願いしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	場所と時間を設定し話を聴く機会を大切にしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始までに事業所側として行うべきこと、対応すべきニーズを整理して伝えた承を得ている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	管理者は「もう一つの自分の家」という感覚である。利用者も職員もお互い「もう一つの家」だったり「家族」だったりそんな状況や場面がある。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担を軽減することは重要だが、決してゼロにすることではないと考える。本人にとって家族は永遠であり、入所後もその絆はかけがえのないものとしてご理解頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くのことを家族から教えて頂いている。職員も家族も本人を主体に考えることを最重要としている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係がここでも存在しており、輪の中に職員が入って輪を丸くすることや、見守ることを大切にしている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではないが、必要に応じて対応できる。過去では退所後に必要な情報提供や面会等。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や習慣、趣味等、環境が変わってもそれを最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいかを大切にしている。	管理者及び職員は、本人を主体に考える事を重要視しており、日々のサービス提供の際、会話する機会を大切に、何気ない会話から希望、要望の把握に努めている。意思表示が困難な利用者については表情や仕草、家族からの聞き取り等から希望、意向を汲み取り、サービスに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	多くのことを家族から教えて頂いている。職員も家族も本人を主体に考えることを最重要としている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や習慣、趣味等、環境が変わってもそれを最大限継続できるよう考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいかを大切にしており、本人、家族、職員等様々な対話から把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	教えて頂いたものを大切にしながら作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しと作成を行っている。計画作成に当たっては、家族の意向や職員の気づき、アイデア等総合的に把握し計画に反映させている。	介護計画作成過程において、職員や家族等関係者から出された意見や情報を一連の記録に残すことで、ケアの振り返りや情報共有のツールとして活用できることから、記録の工夫等について期待したい。	

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ノート、ケース記録の活用。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館や学校、公民館などに出向き交流を図る。防災等に関わる訓練や会議、多様な地域との協力的体制で支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力により細やかな相談や指導を受けられる体制がある。	利用者の状況に応じて通院支援が行われており、近況報告書を用いて日頃の生活状況や身体状況について医師に説明している。また、受診結果は口頭にて家族に連絡する等、各関係者と情報を共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム専従の看護職員の健康管理の下、かかりつけ病院や荘看護師との連携により安心な医療面の提供が支援できる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とともに医療機関と連携をとり、情報交換や可能な限りの支援を行っている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とともに医療機関と連携をとり、情報交換や可能な限りの支援を行っている。	利用開始時には利用者や家族の意向を把握すると共に、事業所として出来ること、出来ないことを説明し、同法人の福祉施設と連携を図りながら利用者や家族の不安並びに負担の軽減に努めている。また、家族、事業所、医療機関で連携を密にし、繰り返しの話し合いと段階的な合意を得ながら終末期ケアに取り組んだ事例もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行う訓練参加、(救護、ノロ対応、AEDなど)。講習会への参加。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、防災協力を中心にした協力体制づくり。ホットライン体制等。	年2回、法人との合同避難訓練を行う他、招集訓練や土砂災害を想定した訓練を行う等、実践的な訓練を重ね、有事の際に備えている。また、地域とは防災協力を中心に連携し、避難訓練に地域の方が参加する他、先の震災では同法人の福祉施設と連携し対応する等、各機関との防災協力体制が確立されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の目標として掲げており重要視している。記録等も管理場所を決めている。	プライバシーの確保については法人として特に力を入れており、書類の保管方法も含め徹底している。また、日頃からのトイレ誘導や入浴の際についても羞恥心に配慮した声掛けを行い、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話やそれ以外のコミュニケーション、一緒に過ごす時間、いつも近くに誰かがいることを大切にしている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしている。起床、食事や入浴等できる限り意に沿っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や美用品は家族に協力を得て、その人らしさ(好み)を大切にしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事をしている。入居者の状態に合わせて援助しやすい位置に職員が座り全体を把握している。	食事は三食事業所で調理している。献立は予め決まった献立を利用するのではなく、その日の利用者の希望を尊重し、畑で収穫した季節の野菜を取り入れながら調理している。また、利用者が準備や後片付けを含む「食」のプロセスを職員と一緒にやり、食事が楽しみになるよう支援している。尚、先の外部評価の指摘を受け、提供した食事のメニューについて定期的に栄養士のチェックを受け、栄養バランス等についてのアドバイスを受けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立が重ならないよう、栄養が偏らないよう工夫している。また、栄養士の協力を得て献立についてアドバイスをもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯管理と合わせて洗面時と就寝前に口腔ケアを行っている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握した援助を行っている。オムツ、パット使用者もできる限りのトイレ排泄を援助している。	入浴、食事、排せつ等総合チェック表を用いて排せつパターンを把握し、適切なタイミングでの声掛けを行い、トイレでの排せつに繋げている。また、利用者の状態に応じて一部トイレの電気を常時点けたままにし目印にする等、利用者の目線に立った支援が行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師に相談しながら本人の状態に合わせた対応を考慮している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に合った希望やタイミングまた、必要性を重視しながら、それに応じた入浴の援助を行っている。	特に強制することはせず、利用者一人ひとりの希望、必要性等総合的に勘案し入浴の支援を行っている。また、重度の利用者でも安全に入浴できるよう、隣接する福祉施設と連携し、機械浴にも応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握しており、日中でも休息の時間を確保している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となって管理している。バイタルほか症状の変化等は全員で記録され医師への報告にも役立っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員からの誘いも重要だが、それぞれの得意分野を把握して関わることをしている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域交流、ドライブほか家族との交流。	広い敷地を利用したの外気浴や散歩等、日常的な戸外活動が楽しめる。また、利用者の希望を取り入れながらバスハイクを行う他、通院の機会等も利用し外出支援が行われている。尚、家族の協力の下、法事や外泊、友人との食事会等にも臨機応変に対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望をふまえて、その力量に応じた支援をしている。管理が困難な場合は、出納を明らかにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族と会話していただく事や、携帯電話の持込による対話の援助。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調のものが多く建物の内部は、とても落ち着いている。最近、居間で大型のテレビを観ながら対話、団欒している光景が多くみられる。	リビングの大きな窓からは広大な自然が織りなす四季折々の景色が楽しめる。また、リビングには畳のスペースもあり、利用者は思いおもいの場所で過ごすことができる。尚、加湿器やエアコンを利用し、温度や湿度を管理することで利用者の健康や衛生面に配慮し、快適に過ごせる環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはテーブルを3台設置。隣には居間もあり、自由な空間で過ごしている。			

自己	外部	671900231	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や、装飾品等の持込を家族にもお願いしている。	利用前の生活習慣とのギャップを感じないよう、使い慣れた生活用品や位牌等思い入れの強い物を自由に持ち込んでもらい、利用者の不安の軽減に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や習慣、趣味等環境が変わってもそれを最大限継続できるように考えている。また、日頃の関わりから可能性を見出したり、得意分野での役割やどう暮らしたいか(個性)を大切にしている。			